

熊本商工会議所・第41回 経営動向調査

平成18年9月期 結果報告書

業況DIマイナス24.9 前期(18年6月期)と変化が見られず「横ばい」

～飲食業、小売業が悪化し、製造業、建設業は好転～

調査結果のポイント

全業種の業況DI値はマイナス24.9で、前回(平成18年6月期)調査と比較して変化はなく、横ばいであった。

前回調査から業況が好転したのは3業種で、製造業が▲26.7(プラス20.0ポイント)、建設業(土木)が▲30.8(プラス14.7ポイント)、建設業(職別・設備)が▲16.0(プラス9.9ポイント)であった。一方、悪化を示した業種は2業種で、飲食業が▲50.0(マイナス19.2ポイント)、小売業が▲37.5(マイナス15.1ポイント)となった。そしてほぼ横ばいの業種は2業種で、サービス業が▲9.8(プラス2.0ポイント)、卸売業が▲18.2(マイナス0.8ポイント)であった。

今回の調査において、前回調査で好転傾向が見られた飲食業、小売業、卸売業の業種が悪化するなど、景況回復は一進一退の動きとなった。

また、来期(平成18年10～12月)の業況見通しは、飲食業を除く他の業種において、好転もしくは横ばいの見通しであったが、中でも建設業(土木)は明るい見方が示された。

- ・ 調査対象期間 平成18年7月～9月(平成18年度 第2四半期)
- ・ 調査期間 平成18年9月11日(月)～9月15日(金)
- ・ 調査対象数 熊本市内 小規模企業 288事業所
- ・ 回答数 213事業所(回答率74.0%)

※ 小規模企業とは、商業・サービス業では従業員5名以下、それ以外の業種は20名以下の企業をいう。

《業種別回答状況》

対象業種	対象企業数	回答企業数	回答率(%)
製造業	37	30	81.1
建設業(土木)	20	13	65.0
建設業(職別・設備)	34	25	73.5
卸売業	34	22	64.7
小売業	72	57	79.2
飲食業	21	13	61.9
サービス業	70	53	75.7
合計	288	213	74.0

※ DI値(業況判断指数)について

DI値は、売上高、受注・販売単価、業況などの各項目についての、判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気や弱気など「景気の実感」をそのまま表すものである。

DI = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

対前期比を主とした前回(6月期)調査と比較した概況

【全業種】

製造原価・仕入(材料等)単価がやや悪化したが、販売(受注)・客単価はやや改善した。売上高がやや改善となったが、採算(営業利益)は、ほぼ横ばいであった。

<製造業>

製造原価がやや悪化したものの、販売(受注)単価は大きく改善となった。売上高が改善し、採算(営業利益)は、僅かに改善となった。

<建設業(土木)>

仕入単価、受注単価ともに悪化となった。売上高が大きく改善し、採算(営業利益)も大きく改善となった。

<建設業(職別・設備)>

仕入単価がほぼ横ばいであったが、受注単価はやや悪化となった。売上高が改善し、採算(営業利益)は大きく改善となった。

<卸売業>

仕入単価、売上単価ともに僅かに改善となった。売上高が悪化し、採算(営業利益)もやや悪化となった。

<小売業>

仕入単価が悪化し、客単価もやや悪化となった。売上高が大きく悪化し、採算(営業利益)も悪化となった。

<飲食業>

仕入単価が横ばいの中で、客単価はやや改善した。売上高が横ばいであったが、採算(営業利益)は大きく悪化となった。

<サービス業>

仕入単価(材料等)がやや悪化したが、客単価は僅かに改善となった。売上高が改善し、採算(営業利益)は、やや改善となった。

業種別の業況一覧

上段＝対前期比
下段＝対前年同期比

業種	今回調査 (18年9月期)	前回調査 (18年6月期)	今回調査との 比較ポイント
全業種	▲ 24.9	▲ 24.9	0.0
	▲ 32.5	▲ 29.9	▲ 2.6
製造業	▲ 26.7	▲ 46.7	20.0
	▲ 46.7	▲ 50.0	3.3
建設業 (土木)	▲ 30.8	▲ 45.5	14.7
	▲ 15.4	▲ 30.0	14.6
建設業 (職別・設備)	▲ 16.0	▲ 25.9	9.9
	▲ 12.0	▲ 34.6	22.6
卸売業	▲ 18.2	▲ 17.4	▲ 0.8
	▲ 36.4	▲ 34.8	▲ 1.6
小売業	▲ 37.5	▲ 22.4	▲ 15.1
	▲ 50.0	▲ 29.3	▲ 20.7
飲食業	▲ 50.0	▲ 30.8	▲ 19.2
	▲ 66.7	▲ 46.2	▲ 20.5
サービス業	▲ 9.8	▲ 11.8	2.0
	▲ 9.8	▲ 9.8	0.0

来期(18年10~12月期)の業況見通し

全業種における来期(18年10~12月期)の業況見通しのDI値は±0.0となり、18年6月期の前回調査の業況DI値▲11.9と比較してプラス11.9ポイントを示し、全体として明るい業況見通しとなった。

業種別で、前回調査と比較して来期の見通しDI値が改善する業況見通しの業種は、建設業(土木)、卸売業、小売業、建設業(職別・設備)の4業種であったが、中でも建設業(土木業)、卸売業、小売業の3業種は大きい改善見通しとなった。一方、悪化の業種は、飲食業のみであったが、大きな悪化の見通しであった。サービス業、製造業の2業種は、ほぼ横ばいの見通しとなった。

業種別の来期における業況見通しは、次の一覧のとおり。

業 種	今回調査 (18年9月)	前回調査 (18年6月)	今回調査との比較
全業種	± 0.0	▲11.9	11.9
製造業	▲16.7	▲18.2	1.5
建設業 (土木)	▲20.0	▲62.5	42.5
建設業 (職別・設備)	8.3	± 0.0	8.3
卸売業	▲10.5	▲35.3	24.8
小売業	4.0	▲20.0	24.0
飲食業	▲30.0	± 0.0	▲30.0
サービス業	15.6	13.9	1.7